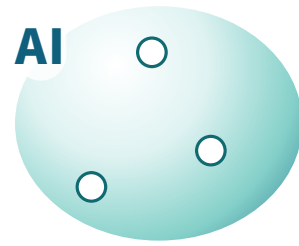


社長の仕事はAIでどこまで楽になるのか？



文章作成だけではありません。AIは、社長の“考える仕事”を助ける道具になり始めています。

最近、「AI」や「ChatGPT」という言葉を耳にする機会が増えました。AIは単に文章を作るものではなく、経営課題、営業、人材、社員への伝え方を整理する壁打ち相手として活用できます。

AIは「答え」よりも「整理」に効く

AIの価値は、答えをそのまま採用することではありません。社長の頭の中にある漠然とした考えを見える形にし、次に確認すべき点を整理することにあります。

使い方のイメージ

AIは、社長が「これは違う」「ここは使える」と判断するための、最初のたたき台を作る補助役です。

こんな社長業務に使えます

1 経営課題の洗い出し

「売上はあるのにお金が残らない」「社員が育たない」といった悩みを入力すると、原因や確認ポイントを整理できます。

考える入口を増やすだけでも、次の一手が見えやすくなります。

2 社員への指示文づくり

業務改善の指示、朝礼の話、社内ルール、新人教育資料など、社員に伝える文章の下書きを作れます。

「伝えつもり」を減らすことは、会社の動きを変えます。

3 営業方針・会議資料

営業戦略、キャンペーン案、会議資料も、短時間で下書きを作り、社長が内容を判断できます。

白紙から始めないだけで、考える時間を確保できます。

大切なのは、まず社長自身が使ってみること

AI活用は、いきなり社員に任せるよりも、まず社長自身が触ってみることをおすすめします。会社の方向性や課題を一番理解しているのは社長だからです。

- 社員に業務改善を伝える文章を作って
- 売上はあるのに利益が残らない原因を整理して
- 中小企業の社長が今後考えるべき経営課題を教える

保険・財務・事業承継を考える前の整理にも

会社の将来を考えるテーマは、いきなり専門家に相談する前に、まず自分の考えを整理することが大切です。

会社のリスク

社長に万一のこと

借入金・退職金

後継者への引き継ぎ

AIは第一歩として有効ですが、最終判断には税理士・社労士・弁護士・保険担当者など専門家の確認が欠かせません。

今月のポイント

AIは、社長の頭の中を整理し、判断を早め、社員への伝え方を助ける道具です。まずは難しく考えず、普段考えていることをAIに投げかけてみましょう。

気になることがあればお気軽にお問い合わせください。

※本紙は一般的な情報提供を目的としています。

気になることがあれば
お気軽にお問い合わせください